

教育研究所だより



No.244 令和7年9月24日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育研究センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyl_index.html

令和7年度 教育研究発表大会・教職員全体研修会

守山市教育研究発表大会・教職員全体研修会を8月25日(月)に開催しました。昨年度から教育研究発表大会を教職員全体研修会と合同で開催しており、2学期を目前に控えたあわただしい時期の開催でしたが、ご参加いただき、本当にありがとうございました。

大会の前半では、辻本長一教育長から講話いただきました。続いて、全国学力・学習状況調査の考察についての報告、当研究所研究員による調査研究の報告を行いました。そして、後半の教育講演会では、畿央大学教育学部教授 島 恒生 様にご講演いただきました。



【講話】

辻本長一教育長からは、「私たち教職員が大切にしたいこと」として、

1. 教育者としての使命感、責任感、教育的愛情
2. 「より良い組織風土の醸成」

について講話いただきました。教育長自らの経験に基づいて話をしていただき、あらためて教育の本質を考え、自身の言葉かけや関わり方を振り返る機会となりました。また、子どもたちの人生に多大な影響を及ぼす崇高な仕事を担う職に就いている者として、その使命感や責任を改めて感じ、身の引き締まる思いになりました。

後半の「より良い組織風土の醸成」の話の中では、多忙である時ほど、周囲に目を向け、相手の立場に立つことで、新たな気づきを得ることが信頼関係を深めることに繋がること、さらに「薫習」という言葉をもとに、私たち教職員一人ひとりの在り方こそが学校園を変える力であり、ひいては未来を変える原点であることについて改めて考える時間となりました。

【全国学力・学習状況調査の考察】

学校教育課の浅野指導主事より報告を行いました。今年度の結果をもとに、授業改善のポイントを提言させていただきました。また、「先生ができるようになった所を伝えてくれる」に「よくある」と回答した児童は正答率が高くなっていることから、先生方の声掛けは、生徒の主体性や学習の力を引き出す力があることを伝えさせていただきました。さらに、各校で取り組んでいただきたいこととして、4点あげさせていただきました。

1. 各校で特徴(成果・課題)をつかみ、全校的に取り組む。
2. めあてと振り返りを結ぶ「探求のあり方」を工夫する。
3. 目的に応じて、「ICTも使う」という視点で学習ツールの幅を広げる。
4. 授業や学級会の話し合い活動で、「深い学び」と「学習集団づくり」を支える。

各校で協議し、具体的な形で進めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【調査研究発表】

研究員の木村 有貴 から調査研究テーマである「新たな不登校を生まない学校における視点を考える」について、昨年度の研究発表を行いました。発表では、本市の課題から「新たな不登校を生まないための視点」として、以下3点の児童生徒は不登校の一定リスクがあることについて報告しました。

- ① 前年度欠席日数が10日以上の児童生徒
- ② 小学校6年間の累計欠席日数が30日以上の児童
- ③ 小学校3年までの児童で、読み書きチェック誤答数が20個以上ある児童

今年度の研究については、これら3つの視点を研究協力校の先生方に周知し、児童生徒と関わることで未然防止・早期対応が図れ、新たな不登校を生まないことにつながるのではないかと仮説をもとに、研究協力校にて研究を進めています。2学期以降、これらの実践を続け、研究結果をお示しできればと考えています。

【教育講演会】

畿央大学教育学部 教授 島 恒生 様より、「心を育てる道德教育と道德科の進め方」と題して、私たち教職員が道德の授業で陥りやすい点について、具体的に改善するポイントを教えていただきました。また、実際の教材を使い、授業の進め方についてわかりやすくお話いただきました。さらに、発問の仕方を少し変えることで、子どもの考える内容や深さ、授業の質が変わることなど、道德の授業をどのように作っていくか、聞き手である私たちに問いかけながら、教えていただきました。



子どもたちの深い学びのために、「伝達型」の「教える」授業から、子どもたちが「考え、議論」し、子どもたちが「つかむ」授業の実践の大切さを教えていただき、大変貴重な機会となりました。

<大会参加者の感想より>

- ・ 学校園の風土について、子どもに求めている価値をまずは大人が体現することの大切さを改めて感じました。安心できる雰囲気でも過ごせるようにするためには誰にとっても居心地のよい空間である必要があると感じ、わたしも職員の一員として2学期から意識をしながら過ごしていけるようにしたいと思いました。
- ・ 守山市の子どもたちの強みと弱みについて、具体的に伝えていただき、私自身が子どもたち自身に考えさせ、力をつける授業ができていたかと振り返りながら聞かせていただきました。また、どういう力が今求められているのか、その力を育むためにどのような工夫ができるのかの視点で講義していただき、大変勉強になりました。
- ・ 新たな不登校を生まないために、早期に動くことやしっかりと引き継ぎを行うことの重要性が改めて分かりました。また、低学年の学力も不登校と関係があることが分かり、勉強のしんどさから不登校につながっていないか、その視点ももっていきたいと感じました。
- ・ 道德科の学習を通して、年齢発達に合わせたねらいに即して、子どもへの言葉掛けや、考えを引き出す関わりが大切であることは就学前も同様であることを再認識した。就学前の学びを小学校の先生方と話す機会を持つことの大切さも合わせて感じた。
- ・ 講義では、生徒の主体性を引き出すためには、教員が安易に答えを与えたり、一方的に指示したりするのではなく、生徒自身に考えさせる「問い」を投げかけることが重要だと学びました。これまでは、授業の流れをスムーズに進めようとするあまり、生徒の発言にすぐに反応したり、正解を求めたりすることがあったと反省しています。生徒の言葉をじっくりと受け止め、考えがさらに深まるような働きかけを意識することが、真の学びへとつながるのだと改めて感じました。

【特集】 守山市教職員夏期研修

今年度は延べ750名の方に受講いただきました。自分の課題解決のため、学びを深めるため等、様々な目的で受講していただいたかと思います。受講者の感想を一部掲載しますので、学びを共有いただけたらと思います。



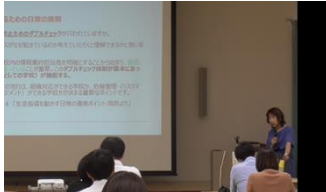
Google フォームでの振り返りにご協力ありがとうございました。いただいた各講座のアンケートを参考にし、今後も教育現場のニーズにお応えできる研修講座を計画していきたいと思っています。

生徒指導・教育相談研修講座

(敬称略)

実践力形成ステージ

A-1 7/30(水)	生徒指導(いじめ・不登校等)の現状と 教職員として大切にしたいこと	学校教育課 指導主事 安田 明広
○生徒指導のことや不登校児童対応のことなど、大事なことをたくさん学べた有意義な研修でした。グループの先生方とお話できる時間もたくさんあり、いろいろな取り組みがあることを知れてよかったです。 ○生徒指導は、何も特別なことだけではなくて、日常の子どもたちとの対話、コミュニケーション、その関係づくり全てが生徒指導になっていることを改めて再確認することができました。		
A-2 7/28(月)	教員として子どもや保護者といかにかかわるか	龍谷大学 教授 内田 利広
○PCAGIP 法を初めて体験し、事例について詳しく考えることができる、よい方法だと思いました。みんなで質問していくことで、そこから新たな質問が生まれていきました。そこからみんなで支援を考えることで、多面的・多角的な話し合いができました。また、学校でケース会議などの機会があれば実践していきたいです。 ○情報を可視化することによって、より共有されやすく、ブレない話し合いができると感じました。		
A-3 8/8(金)	自分たちでよりよい学級をつくっていかう ～楽しい学級づくりの実践例～	教育支援センター 相談員 小川 宏
○授業と学級経営とは、切っても切り離せないと感じました。学級会で自分たちの課題を一人ひとりが自分ごととして、解決に向かうことで、本音で言い合える学級を作れることがわかりました。 ○学級会について、悩んでいました。司会へのアプローチの仕方や話し合いの柱などについて教えていただき、学ぶことができました。2学期の学級会に活かしたいと思いました。		
A-4 7/22(火)	学校(学級)に行きづらい子どもの「なぜ?」を考える	教育支援センター こども支援コーディネーター水野 恵
○OBPS シートを使うことにより、児童の困りを「なぜなのだろう」という視点で改めて考えることができた。個別支援計画、アセスメントがない児童でも手軽に考えることができるので、今後も活用していきたい。 ○ミニケース会議がとてもいいなと思いました。ケース会議は大切なものですが、準備に時間がかかったり、そこまでではないけど気になる子がいたりしました。そういった時には、ミニケース会議で学年の先生と相談するのもいいなと思いました。		

発展・深化ステージ	E-1 8/4(月)	子どものうつと問題行動・不登校の関連について	岡山県立大学 准教授 周防 美智子
	○大変中身の深い内容でした。いじめの対応では、上部だけの対応になってないか、今一度自校の対応について考えてみたいと思います。うつなど、諸課題と医療の連携については、学校としていつも課題となります。どこに、どのようにして繋がれば良いか難しいところです。行政的なアプローチも必要だと思うことから、関係されるところにお声かけしつつ、現場でできることをこれからも模索していきたいと思います。 ○聞き取りをするにあたって、子どもの理解のためにするという教員のカウンセリング力が必要であること、話したい関係づくりを心がけることが大切であることを改めて意識していきたい。		
	E-2 8/1(金)	教育相談の視点を生かした支援のあり方 ※中堅者資質向上研修と兼ねる	教育支援センター 相談員 竹橋 貴美子
	○「行動よりも気持ちに着目する」と教えていただき、目に見えやすい行動に焦点を当てて判断しがちだったので、気持ちに寄り添うことをもう一度していきたいと思いました ○不登校の要因、それに対しての気をつけることなどさまざまな視点から考えることができた。また不登校だけではなく、普段の学級経営でもいかせると感じた。		

コミュニケーション力育成講座

実践力形成ステージ	B 7/31(木)	やる気を引き出す言葉の力 ～ペップトーク～	淡海言の葉教育研究所 代表 安岡 寛
	○考え方や行動を変えなくても、言葉だけ変えれば…という言葉に、今日から試してみようと前向きになりました。自分を満たすことも忘れがちなので、夏休みは練習期間だと思って実践してみたいと思います。 ○ペップトークについて具体的な話を聞くのが初めてで、大変興味深かったです。プップトークになっていた自分もいたので、まずは自分にセルフペップトークしながら、少しずつ言葉を変えていけたらと思います。 ○脳は否定と肯定を区別できない。だから言葉かけを変えていくと良いという理由がよくわかりました。自分の心の余裕を持って言葉を変えていきたいです。		

授業力向上研修講座

実践力形成ステージ	C-1 7/28(月)	楽しもう音楽活動やってみよう音楽指導	明富中学校 校長 福井 洋枝 教諭 國門 香奈恵
	○授業の指導で実践できそうなアイデアや言葉かけを具体的に実践も交えて学べたのがよかったです。やらされる合唱・合奏ではなく、子どもたち自身が「綺麗にしたい!」「もっと届けたい!」と思えるような音楽指導をできるようにしたいなあと感じました。 ○大変楽しい時間で、あっという間に終わってしまいました。小学校の低学年、中学年、高学年の発達段階で何が大切なのかを端的に教えていただき、実際の教科書の教材を使ってわかりやすかったです。 ○楽しく学べました。実際に体験しながら、基本的なこと、言葉かけやコツが具体的にわかり、2学期からの授業に生かせそうで、良かったです。		

実践力形成ステージ	C-2 8/19(火)	楽しい図工の時間にしませんか	教育支援センター 若山 希
	○活動を通して、楽しい図工を体験できたことがとても良かったと思います。視点を絞って図工の学習を計画するというポイントを意識して、2学期以降に活かしたいと思いました。 ○2学期がはじまったらすぐにでも実践したくなりました。作品展のための図工ではなく、单元ごとに子どもたちが新しい楽しさに出会える図工にしたいと思いました。 ○アートカードや、鑑賞、交流などの普段難しく感じている活動を実践的に学ぶことができた。また、図工の授業を行う上で、どのようなことを大切にすべきか学べた。 ○久しぶりに子ども目線で、図画工作の活動に取り組んだり、参加者と話し合ったりするなどできたことで、改めて気づけたことが多かった。作品作りに縛られすぎず、子どもの感性を磨く時間にしていきたい。		
	C-3 7/28(月)	気づき感動し、自らの生き方を深く考える 道徳の授業づくり	長浜市教育委員会事務局 教育指導員 横尾 俊美
	○模擬授業もあり、こうすればいいのか!というヒントをたくさんもらえました。子どもも教師も楽しめる道徳授業を心がけたいと思います。 ○具体的な授業の教材を用いて考えることで、自分だったらこう考えそうだな、子どもだったらこう考えそうだな、と考えることができた。また、他の参加者ののはなしを聞くと、さらに考えが広がり、教材研究をこんな風に進められるといいなあ、と2学期に向けて気持ちが高まった。 ○楽しく道徳の授業について考えることができました。自分の考えを持ち、仲間と交流することの楽しさを感じ、これを子どもたちにもさせてあげたいと思いました。教材研究をし、自分の考えを伝える活動を取り入れていきたいと思いました。		
			
	C-4 8/7(木)	授業づくりは学級づくりから! 「市内の先生から学ぶ学級経営の考え方」	河西小学校 教諭 横山 周平 守山北中学校 教諭 小倉 太智
	○時間がないと言いつつしっかり取り組んでいなかった学級会話を聞いて、やはり学級会は意味があると思った。体験を通して学級づくりをしていくことは自分も力を入れていたが、今回の講座を経てもっと継続的に取り組んでいきたいと思った。 ○子どもの希望を受け入れて実践して満足して終わるのではなく、振り返りや次に繋げていくための話し合いを行うことの大切さを学びました。学級会や2学期の学級レクでどんな取り組みをしていくかで悩んでいましたが、今回学んだことを活かして考えていきたいと思いました。		
			
			
	C-5 8/4(月)	理科で考える力を育もう ～单元や授業の構成のしかた～	守山南中学校 教諭 高山 孝介
	○理科教員として、改めて学び続ける必要性を実感させてもらいました。身につけさせたい力が同じでも、その手だては無数にあって、その手だてを考えるためのアイディアのヒントは周りに散りばめられていて…アンテナを高く張って、まずは自分自身が楽しんで授業づくりをしていきたいと思いました。あとは計画的に、逆算で授業を作ることを心がけたいです。非常にわかりやすく、勉強させていただけた時間になりました。 ○子どもにどんな力をつけさせたいのかよくわかった。また、力をつけさせるための授業計画やワークシートの作り方を具体的に知ることができ、とても勉強になった。		
			

発展・深化ステージ	F 8/20(水)	国語科の「個別最適な学び」と「協働的な学び」	京都女子大学 教授 水戸部 修治
	○具体的な実践事例を多数紹介いただき、またそれがどのように指導要領と対応するのか、ご解説いただきありがたかったです。 ○子どもたちの意欲や興味を置き去りにしてしまわないように、導入や発問、ワークシートなど様々な工夫ができることが分かりました。ペアワークの仕方など、真似したい点がたくさんあったので、2学期から実践してみたいと思います。		

特別支援教育研修講座

実践力形成ステージ	D-1 7/23(水)	特別支援学級の授業づくり	速野小学校 教諭 森 あゆみ
	○理論に基づいた実践事例、実際に体験もできて、本当に分かりやすかったです!!もっといろんな人に話聞いてほしかったくらいです!学校に戻って支援級の仲間に広げたいと思います。あっという間の1時間半でした。 ○とても参考になりました。前半の講義も、わかりやすく、納得できることばかりでした。後半の実践の紹介も、子どもに楽しく学ばせることを目指す素敵なものばかりでした。		
	D-2 7/29(火)	こんな時、どう対応しますか?~子どもの理解と支援~	学校教育課 特別支援教育推進員 丸田 尚志
	○児童生徒一人ひとりと向き合って、特性などをしっかり理解して、なにをどこまでできるのか具体的な目標を達成できるようにしていくことが重要であることを学べた。これからどうしていくべきか見通しがもてた気がする。 ○個別の支援計画について具体的に教えてくださり、大変勉強になりました。子どもたちへの支援について深く考える良い機会となりました。また2学期から今日勉強したことを子どもたちに還元していきたいと思います。		
	D-3 7/23(水)	通常の学級と特別支援学級における支援や連携	守山北中学校 教諭 木下 昌子
	○さまざまな校種の先生方と経験などを話せたことが良かったです。失敗談など、みなさん同じ経験をしてきているのだなということや、だからこそみんなで気をつけていかないとけないのだと気づかされました。 ○具体的な例を通して、どんな支援や声掛けをすればよいか、どんな所に気をつけたらよいか、大切にすることはどんなことか、わかりやすく話して下さり、ありがとうございました。		
発展・深化ステージ	G 7/30(水)	発達障害をもつ子どもとのかかわりについて	済生会守山市民病院 医師 上羽 智子
	○専門的な立場から、学校現場の現状も加味した上でさまざまな意見をいただけたと感じました。特に、噛み砕いた形で診断基準を伝えていただき、自分の学級の子の様子と照らし合わせながら、具体的に関わりについて考えることができました。 ○発達障害から、睡眠、起立性調節障害など子どもの体調における、様々な内容を学ぶことができ、たいへん勉強になりました。子どもの身体症状には様々な背景があり、医療にもつなぐことの重要性を感じました。今後も今日学んだことを活かしていきたいです。ありがとうございました。		

学校マネジメント研修講座

H-1 7/31(木)	市内の先生方とともに考える、 若手育成とこれからの学校	河西小学校 教諭 南 香織
		物部小学校 教諭 神馬 季和
		守山南中学校 教諭 田村 将之
		明富中学校 教諭 國門香奈恵
○様々な立場からの学校のあり方、組織のあり方について話を聞くことができた。自分の立場はその間にあると感じたので、つなぎ方、まとめ方などあり方を考えていきたい。 ○各校の悩みや現状、どのような心構えていたらいいのか、などを知ることができ、明日からの学校での関わりに生かそうと思いました。自分にできることを少しずつやっていこうと思います。 ○学年主任として、困っていた部分の、話をたくさん聞けてすごく勉強になりました。また、他の先生方の話を聞けて、共感できる部分がたくさんありました。		
H-2 8/22(金)	物をつくる前に人をつくる ※中堅者資質向上研修と兼ねる	パナソニックエレクトリックワークス創研株式会社
		上席コンサルタント 五十嵐 克行
○豊富な事例をもとにご講話くださり、大変わかりやすかったです。立ち位置が変わると瞬時に視点も変わる、という事例に深く共感しました。子ども、保護者、教職員の思いに真摯に耳を傾けられる教員でありたいです。 ○五十嵐先生のおっしゃる「社員稼業」の考え方に、共感しました。また、ベンチマーキングについては、他業種という捉え方でなくとも、身近な同僚や、関わる児童、いろいろな相手に当てはめて考えることができると感じました。私にとって深い学びのある時間となりました。ありがとうございました。		



教師力・人間力向上研修講座

I-1 7/29(火)	パリパラリンピックを終えて ～挑戦し続ける力～	パリパラリンピック競泳日本代表
		トヨタ自動車 南井 瑛翔
○南井選手が数々のトラブルを乗り越えて、日々ご精進なされていたことを知りました。私もどんな困難があっても南井選手のようにベストを尽くせればと思いました。これからも応援したいと思います。ありがとうございました。南井選手の講演を通して、挑戦することの大切さや、あきらめずに前を向く姿勢の素晴らしさを改めて感じました。 ○南井選手は、困難な状況にあっても前向きに努力を重ね、パラリンピックという大舞台に立たれたことを、ご自身の言葉で丁寧に語ってくださいました。自分の限界を決めつけず、常に挑戦し続ける姿に、強い意志と覚悟を感じました。日々の生活の中で、私たちはつい「無理かもしれない」と思うことがありますが、南井選手の姿を見て、自分も一歩踏み出してみようと思えました。これからの自分の生き方にも大きなヒントを与えてくれたように思います。 今回の講演を通して、夢や目標に向かって努力し続けることの尊さを学びました。これからの自分の挑戦にも、自信を持って向かっていきたいです。		



I-2 8/1(金)	夢は人をつなぐ	株式会社人生最幸
		代表取締役 村田 和哉
○夢をテーマに貴重なお話をありがとうございました。仕事と子育てに追われて、自分の事は後回しになっていたもので、まずは自分自身が夢を持ち、夢を追う姿勢を子どもたちに見せることが大切なのだと改めて気づかせられました。夢について考えてみたいと思います。 ○子どもたちと関わる仕事をする者として将来を見据えて教育することは永遠のテーマだと思います。目の前にいる子どもたちが未来でどれだけ幸せに過ごせるかその礎を築く手伝いをするのが自分の使命だと思っています。その中で夢の存在がいかに大きいか生き方に影響するかを改めて考えました。 ○夢の大切さ、本当によくわかり、力をもらいました。夢は叶う。人生はよい方向しか進まない。とても、感謝しています。ありがとうございました。 ○話が進むにつれて、ぐいぐい引き込まれました。まず自分が元気に、やりたいことを実践しようと努める毎日にしていこうと、強く思いました。そのことが、子どもたちへのメッセージになると思いました。 お話を聞くことができてよかったです。ありがとうございました。		
		



幼児教育研修講座

J-1 7/1(火)	幼児期の運動遊びの実践 ～保育者も一緒に体を動かして遊ぼう～	守山保育園 武富 由花 速野幼稚園 緩詰 杏美
○実際に体を動かしながら楽しく運動遊びについて学ぶことができました。クラスでも取り入れて活かしていきたいなと思います。 ○普段使っている道具でも、工夫次第でより楽しく、また様々な力が身につくものになり得ることが分かった。実際の保育で取り入れていきたい。 ○身体を動かして実際に遊びをすることで楽しさを味わいました。子どもたちと一緒にやってみたいと思います。とくになわとびや輪飛びはサーキット遊びなどに取り入れて楽しみたいと思いました。ありがとうございました。 ○自分の知らない運動遊びを知るきっかけとなった。年齢に応じたやり方でアレンジしながら、子どもたちが運動遊びに興味を持ち、達成感を感じられるようにしていきたいと思う。		
J-2 8/19(火)	「保育に活かす！ 手遊び・ふれあい遊び実践研修」	浮気保育園 寺田 梢 守山保育園 清水 彩花 守山幼稚園 坂田 仁美 中洲こども園 山下 芳子
○知っているものから初めてのものまでいろいろな手遊び歌、ふれあい遊びを、知ることができてよかった。すぐに使える内容であるため保育にいかして行きたい。 ○手遊びやふれあい遊びをする意味や効果などを知る機会はあまりなかったのでとても勉強になった。知っている手遊びでも、人によってやり方が異なっていて面白かった。今日学んだ手遊びやふれあい遊びを明日からの保育に取り入れていきたい。 ○保育を進める中で、手遊びのレパートリーが少ないことが自分の中で課題でしたが、今日の講義で新しい手遊びやふれあい遊びを知り、早速保育でやってみようと思いました。これからも、保育の引き出しを増やして子どもたちが楽しめるような保育をしていきたいです。		

指定研修



中堅者資質向上研修(2回)も実施しております。夏期研修講座と兼ねて行っておりますので、上記の夏期研修講座をご覧ください。

【ステップアップ研修】

ウー2 8/7(木) 授業づくりのポイント
ウー3 8/18(月) 学級づくりのポイント



【ボトムアップ研修】

オー2(選択研修)

A-2(教育相談) A-3(学級づくり)

C-3(道徳) D-3(特別支援教育)

※今年度は自分の課題に応じて研修の内容を選択して受講するようにしました。

オー3 8/22(金)

守山市の学力向上の取り組み(兼中堅研)



第14回生徒会サミットを開催しました



令和7年8月5日(火)、守山市生涯学習・教育研究センター(エルセンター)を会場に市内6中学校の生徒会代表者が一堂に会し、第14回生徒会サミットを開催しました。

今回のサミットは、今の3年生にとって1年間のまとめとなるものです。これまで、昨年12月の第12回サミットでは、最上位目標を協議し、「Enjoy! ~灯そう笑顔のイルミネーション~」と決定しました。6月の第13回サミットでは、この目標を実現していくための具体的活動を協議し、「ペットボトルツリー」と「スマイルボード」を作ること、そして、私たちの活動を「SNSで発信」すること、この3つの活動に取り組んでいこうと方向性を決めました。そして、今回のサミットでは、これらの活動をどのように実現していくのか、具体的な内容や活動日程を確認すること、そして、次のサミットに向け、3年生から1・2年生にバトンを繋いでいくことが目標です。



今回は、まず、事務局の先生より「ペットボトルツリー」「スマイルボード」の活用について提案がありました。「ペットボトルツリー」については、守山市商工会議所が中心となり開催されている「もりやま冬ホタル」に参加させてもらってはどうか、また、「スマイルボード」については、期間を決め市役所に展示させてもらってはどうか、というものです。また、「SNS」については、守山市HPを活用させてもらうというものです。「もりやま冬ホタル」については、商工会議所の方から、ぜひ一緒に活動を盛り上げていきたいと、願いもありました。これらの提案に対し、もう

一度、何のために行うのかという目標を確認したうえで、協議を行いました。その結果、全員が「よし、この方向でやっていこう」と具体的取組が決定しました。限られた時間での活動ですから、この後、いそいで役割分担を行い、「ペットボトルツリー」や「竹灯籠」などの試作を始めました。実際行ってみると簡単そうに思えた作業が、なかなか難しくうまくできません。今後、さらに工夫と研究の余地がたくさんありそうです。



そして、最後は全体研修会です。今回のサミットが3年生にとっては、最後となります。今まで関わってきた思いや今後に向けての願いなどを、各校から代表者が発表しました。「生徒会役員となって以来フル参加しました。とても楽しかったです」「はじめの方は緊張して発言もできなかったけど、他校の人と仲良くなるにつれ発言もできるようになった。

本当に楽しくて有意義な時間だと思った」「他校の人といろいろ交流することは、本当に楽しかった」「積極的に発言することで自分の視野も広がるし、そのことは少しずつ自信となっていった」など、今までの経験・体験から熱い思いを伝えてくれました。3年生からのメッセージは、次代を担う1・2年生にしっかりと引き継がれたと感じました。



最後になりましたが、この1年間ずっと運営を担ってくれた明富中学校生徒会のテキパキとした動きと、ユーモアを交えた明るい司会の雰囲気は、生徒会サミットを支えてくれました。本当にありがとうございました。大変素晴らしかったです。

